

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光地廃屋対策事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	01090103
担当部署	産業経済部	観光課	作成担当者名	山本 征幸	連絡先	424	

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり						
				施策	05	第5節 観光の振興						
				細施策	01	観光活性化の組織強化						
				事務事業		—						
	予算事業名			会計コード	001	款	07	項		目		事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	防災、防犯、景観、観光振興の観点から、地元財産区等と連携して廃屋の処理又は再利用を進める。										
	現状と背景 （どうして）	景気の低迷、観光客の減少に伴い、市内観光地には、廃業により管理のされていない宿泊施設が点在している。建物の老朽化も進み、防災、防犯、景観、観光振興上の阻害要因となっている。観光地再生のためにも廃屋整理を進める必要がある。										
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	市民、観光客、観光産業事業者									
		対象 （直接働きかける）	地権者（地元財産区、地元農協組織）、長野県、建物の権利者、観光協会等									
	意図 （どんな状態にしたいか）	再利用が見込めない建築物については、地権者（地元財産区、地元農協組織）等との連携により撤去を促し、有効な跡地利用を図っていく。										
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃屋撤去と観光地の再生は車の両輪と捉え、観光地の再生ビジョン作成を進め、廃屋問題をビジョンの中に位置付けていく ・ 観光地再生のビジョン作成にあたり、情報の共有、庁内調整の円滑化を図るために庁内連絡会議を開催していく ・ 広域における観光振興の枠組み作りを目指し、市内観光地の再生を広域の中でのビジョンに位置付けていく ・ 廃屋の撤去費用について、地元財産区等に対する間接的支援が行えるよう情報の収集をする ・ 地元財産区民の廃屋撤去決議を導くために、市が行い得る支援を研究し、整備していく 										
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値				
		活動指標	地元財産区等への助言	助言回数	回	財産区等の会議への出席による助言			6			
			庁内連絡会議の開催	庁内連絡会議の開催	回				6			
			県、近隣市町村、民間事業者との連絡会議の開催	広域連携に向けた会議の開催	回				6			
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値				
			廃屋撤去に向けた地元財産区との合意形成	財産区総会上の決議	件	決議			1			
		観光における広域的な枠組みの組成	広域連携体制の構築	件				1				

実施状況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円			
財源内訳	国庫支出金	円				3,500,000	18,621,000
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
職員数	一般財源	円					
	正規職員	人			1.30	1.30	1.30
	嘱託職員 臨時職員	人					
	合計	人			1.30	1.30	1.30
状況	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	—	—	—	63.00	507.00
D O （ ）	活動指標	助言回数	目標	回	6	6	6
			実績	回	19	10	
		達成率	%	—	—	316.67	166.67
	庁内連絡会議の開催	目標	回	6	6	6	6
		実績	回	7	3		
	達成率	%	—	—	116.67	50.00	—
広域連携に向けた会議の開催	目標	回			6	6	
	実績	回			23		
達成率	%	—	—	—	383.33	—	
成果指標	財産区総会上の決議	目標	件	1	1	1	
		実績	件	1	0		
	達成率	%	—	—	100.00	0.00	—
	広域連携体制の構築	目標	件			1	1
実績		件			1		
達成率	%	—	—	—	100.00	—	
備考	廃屋撤去の費用負担について財産区総会の決議を得るためには、撤去後のビジョンを財産区民に示し、撤去の必要性やメリットを訴えていく必要がある。						

事務事業名	観光地廃屋対策事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	01090103
担当部署	産業経済部	観光課	作成担当者名	山本 征幸	連絡先	424	

期	目標	実績	課題
第1期	・ホテル山善に対する建物取去・土地明渡訴訟に係る訴状及び証拠資料作成の支援。 ・白樺湖エリアを含む広域連携の枠組みの検討。	・財産区訴訟代理人による訴状案及び証拠資料作成が進み、遅くとも7月中には訴訟の提起できる見込みとなった。 ・ピーナスラインを基軸とした広域連携を模索し、長野県との接触を開始した。	観光の広域連携は、他自治体、観光協会の事情等も勘案しながら進める必要があり、慎重かつ丁寧に進めていく必要がある。
第2期	・財産区によるホテル山善に対する建物取去・土地明渡請求訴訟の提起。 ・ピーナスラインを基軸とした広域連携の関係自治体への提案。	・財産区によりホテル山善に対して建物取去・土地明渡訴訟が提起され、第1回口頭弁論が行われた。 ・ピーナスラインを基軸とした広域連携を成すことを目指して関係自治体との協議を重ね、7市町が参画する形で地方創生先行型上乗せ交付金(連携事業)の申請を行った。	ピーナスラインに対する観光資源としての位置づけについて、各自治体間には温度差があり、連携に対する積極性も異なる。全体利益を考え、調整を図りながら協議会設立を目指す必要がある。
第3期	・財産区によるホテル山善に対する建物取去・土地明渡請求訴訟の判決取得。 ・ピーナスラインを基軸とした広域連携に係る協議会の設立。	・財産区が提起した建物取去・土地明渡請求訴訟について、望む形での判決を得ることができ、ホテル山善撤去に向けた法的な整理が完了した。 ・県、関係市町、関係観光団体の参画を得て「信州ピーナスライン連携協議会」を設立した。	・廃屋撤去について法的な整理後は、金銭的な負担の問題となる。財産区民を説得するためのビジョン構築が必要。 ・協議会設立を形だけのものとせず、具体的な事業を実施していく必要がある。
第4期	・信州ピーナスライン連携協議会による具体的な事業の実施。特に広域ビジョンの作成の基となる事業の実施。	・広域エリアにおける基礎調査の実施、マップパンフレットの作成、ポスターの作成、ロゴの作成、広域研修会の実施。特に基礎調査による観光趣向の把握は、次年度以降に展開する広域ビジョン作成の礎となる。	・白樺湖再生ビジョン構築に向けた枠組みの形成。 ・協議会組織の強化。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 地方創生先行型上乗せ交付金をテコに連携を進める。交付金が採択となった場合は、補正にて予算計上が必要となる。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性 ①
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) ピーナスラインを基軸とした連携協議会の事業を検討、展開していく上で、地方創生新型交付金の動向に注視しながら予算要求していく必要がある。当初予算には間に合わない可能性が高い。(9月末) 廃屋対策を実質的に進めるために、白樺湖再生ビジョン作成に着手する必要がある。地域主導のビジョン作成を進めるためには、ビジョンを作成する主体による継続的な検討作業を促し、支援していくことが重要である。(3月末)	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点																A
チェック																
課題	廃屋撤去に向けた法律面整理の次には、撤去のための負担抛出の問題が具体的な課題として浮上する。広域連携による広域ビジョン作成を進めることに併せ、白樺湖再生ビジョンを地域主導で描くことを促し、廃屋撤去の必要性やメリットを地域に浸透していく必要がある。地域による白樺湖再生ビジョンの作成を都市計画課、観光課が一体となり支援していくことが重要となる。															記号の定義 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 前年度評価シート整理番号

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	白樺湖の廃屋のうち、最も象徴的な物件について法的な整理を完了することができた。また、白樺湖エリアも含め、ピーナスラインエリア全域を一元的に振興することを目的とした広域連携を形成し、広域的な事業を実施することができた。廃屋問題については、法律面での整理、広域エリアでの観光振興に向けた取組を進展させたことにより、廃屋撤去に向けた機運を高めることに成功したと考える。	白樺湖の廃屋のうち、最も象徴的な物件について法的な整理を完了することができた。また、白樺湖エリアも含め、ピーナスラインエリア全域を一元的に振興することを目的とした広域連携を形成し、広域的な事業を実施することができた。廃屋問題については、法律面での整理、広域エリアでの観光振興に向けた取組を進展させたことにより、廃屋撤去に向けた機運を高めることに成功したと考える。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性(ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	レ	拡 充			
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨		現 状 維 持				
性	縮 小		④	⑧	⑩		縮 小				
	休 廃 止	①					休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					
改革・改善策	・広域連携については、単に廃屋問題に関した事業ではなく、ピーナスラインエリア全域の振興主体として位置付けていく必要がある。次年度以降は廃屋問題とは別の事業としてより強力に推進していく必要がある。 ・白樺湖再生ビジョン作成に向け、地域における活発な検討を促し、都市計画課と共に協議の場に参加する必要がある。					・広域連携については、単に廃屋問題に関した事業ではなく、ピーナスラインエリア全域の振興主体として位置付けていく必要がある。次年度以降は廃屋問題とは別の事業としてより強力に推進していく必要がある。 ・白樺湖再生ビジョン作成に向け、地域における活発な検討を促し、都市計画課と共に協議の場に参加する必要がある。 ・日本版DMO設立に向けた準備を進める。					

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	観光課長	堀内俊彦
---------	------------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光誘客宣伝事業	事業期間	平成 27 年度	整理番号	04040101
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	山本 貢史
				連絡先	424

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり
				施策	05	第5節 観光の振興
				細施策		—
				事務事業		—
	予算事業名	観光誘客宣伝事業費			会計コード	001 款 07 項 01 目 05 事業 02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内の観光地の魅力や可能性について再度磨きあげるために、特徴のある4つのエリア（豊科・八ヶ岳：白樺湖・車山、縄文の里）に分けてブランディングの推進を図るとともに、各エリアが連携して新たな魅力を紹介し、リピーターを増やすことで観光客及び消費額の増加を目指す。また、外国人旅行者のインバウンド誘致は長野県や諏訪圏域との広域連携を図りながら、台湾、中国等を重点市場にターゲットを絞ったプロモーションを積極的に展開する。				
	現状と背景 （どうして）	当市を訪れる観光客及び観光消費額はH3年をピークにバブル崩壊等の経済の影響や団体から個人への旅行形態の変化とインターネットの発達による情報収集の変化により減少を続けていた。しかし、ここ数年下げ止まり傾向にあり、回復の兆しを見せている。また、増加する海外からのインバウンド誘客活動を促進する必要がある。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （直接働きかける）	観光事業者、商業関係者、交通事業者、市民			
		受益者 （誰のために）	個人旅行者（首都圏女子、中京圏）、団体旅行（教育旅行、自然景観鑑賞ツアー） 新たな対象（健康・スポーツ等） 台湾、中国等の東南アジア市場			
	手段・方法 （どうやって）	意図	滞在型、周遊型による観光客、リピーターの増加及び観光消費額の増加 海外からの観光客の増加			
			<ul style="list-style-type: none"> コンテンツや年代などターゲットを絞った効果的な首都圏PR事業による個人旅行者の獲得 加盟団体や連携先が実施するプロモーション参加による団体旅行の誘客 健康などをテーマに既存の観光資源の磨き上げによる新たなテーマによる誘客 激増する訪日外国人旅行者の誘客のための現地プロモーション及び旅行会社・メディア等の招聘事業 茅野市観光協会や諏訪地方観光連盟との連携と組織強化を図る。 			
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		国内プロモーション事業の実施	実施回数（国内）	回	商談会やブース出展によるPRや広告掲載数	30
		海外プロモーション事業の実施	実施回数（海外）	回	商談会やブース出展によるPRや広告掲載数	20
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		観光客数	観光地延利用者数	千人	長野県観光地利用者統計数	3,470
		観光消費額	観光消費額	百万円	長野県観光地利用者統計数	11,128

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	58,100,288	52,450,490	85,885,334	51,720,430	51,269	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円		480,000	40,000,000			
一般財源	円	58,100,288	51,970,490	45,885,334	51,720,430	51,269	
職員数							
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人						
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	1,035.00	937.00	1,534.00	924.00	1.00	
D （ ）	活動指標	実施回数（国内）	目標	回		30	30
			実績			11	
	達成率	%	—	—	—	36.67	—
		目標	回			20	20
	実績	回				4	
		達成率	%	—	—	20.00	—
—	目標	実績	—	—	—	—	
		達成率	%	—	—	—	—
O （ ）	成果指標	観光地延利用者数	目標	千人	3,470	3,470	3,470
			実績		3,053	3,186	3,193
	達成率	%	87.99	91.82	92.02	94.55	—
		目標	百万円	11,128	11,128	11,128	11,128
	実績	百万円	9,706	10,112	10,062	10,384	
		達成率	%	87.22	90.87	90.42	93.31
備考							

事務事業名	観光誘客宣伝事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040101
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	山本 貢史	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	国内では、首都圏での継続的なPR方法の検討、「HOLIDAY2015」イベント出展、八十二銀行ディスプレイを実施する。国外では、重点市場である台湾からの誘客のため、諏訪地方観光連盟と連携した現地プロモーション及び招へい事業を実施する。	HOLIDAY2015イベントブース出展(5/30.31)し、八ヶ岳登山の楽しみ方等を紹介。八十二銀行川口支店ディスプレイスペース(6/15～8/24)4エリアをPR。台湾ブローカー招へい事業(4/20～23)、台湾教育旅行、エージェン現地プロモーション等(6/24～28)を実施した。	首都圏メディアから情報発信してもらう方法の検討。広告宣伝の方法及びニーズなどの検証。台湾の冬商品販売に向けた新たな旅行商品の提案の検討
第2期	国内では、「ランドネ」タイアップ記事掲載、Shibuya City Lounge カフェ出展、東京都庁全国観光PRコーナー出展準備、また、スポーツ宿泊誘致等のための事業等の検討及び実施。の海外では、諏訪地方観光連と連携して台湾旅行会社等招聘事業(7月)の実施、教育旅行における学校交流・文化体験等の受入れを随時進める。	渋谷のカフェで実施した「Chino Cafe」では、北八ヶ岳の魅力を中心に高原野菜や特産品などのPRを行った。今回新たにSNSを使った情報発信を出版社とタイアップして行い、多いときには約7,000人が閲覧をした。インバウンド事業はタイ・マレーシアで開催した長野県観光セミナー・商談会に参加し新たな市場の開拓を行った。	首都圏PRにおけるSNSを使った情報発信には一定の効果があったが、更新頻度の増加や内容の充実に向けて八ヶ岳観光協会との更なる連携が必要であった。
第3期	首都圏で開催されたイベントに出展、参加してきたが、今後の参加に向けての精査を行い、H28年度予算要求を行う。また、インバウンド事業は台湾で冬に向けての現地セールスと台湾メディア、タイ旅行会社の招聘事業を行う。	国内プロモーションではこれまで実施してきた事業の検証を行い、観光課が主となる事業と後方支援に回る事業とを分けて、調整を図る。インバウンド事業では、台湾の冬の旅行商品に対する反応が高かった。	メディアや関係者からのヒアリングからアウトドア志向の強い20～40代女性の目的が山だけを目指すものから麓のアクティビティも広く楽しむ傾向に変わってきている傾向があるため、情報収集を積極的に行い、ニーズを把握する。
第4期	閑散期となる冬の新たな魅力発信を行うとともに、来年度事業の組み立て及び白樺湖エリアの健康に関する事業の推進に向けた情報収集を行う。	冬の商品造成に向けて諏訪地方観光連盟と連携して台湾旅行会社に冬のアクティビティの紹介を行った。また、来年度事業に向けての検証を行った。	市単体での出展に加えて広域でのPRによる滞在時間の延長方法も検討が必要である。

事 中 評 価

管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成果の方向性	②	⑤	⑦
	インバウンドで中国市場の動きが活発になっていることから、現地プロモーション等の検討を行う。		現状維持	③	⑥	⑨
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)		縮小	④	⑧	⑩
	首都圏を中心に多くのイベントに出展してきたので、再検証を行い効果的なPR方法の検証を行う。市内4エリアをつなぐPR方法の検討を行う。		休廃止	①		
				皆 減 縮 小 現状維持 拡 大	コスト投入の方向性	

評価年度 当年度

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定				
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定					
チェック																					A				
限られた予算の中でのPRを行うためには、PRが単発で終わることなく運動することで露出を増やしていく必要がある。また、特に国内の首都圏では情報が多くあることから、ターゲットを絞った効果的なPRを意識的に行っていく。	記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要																								
前年度総合評価判定																									
前年度評価シート整理番号																									
総 合 評 価	細 施 策 評 価 前										細 施 策 評 価 後														
	従来の誘客宣伝活動とともに、ターゲットを絞った国内首都圏PR事業として、これまでの雑誌、カフェでのPRの効果に加えて、雑誌とコラボレーションしたFacebookを立ち上げて情報発信を行った。これにより多いときは、約7,000人が閲覧するなどの効果があった。インバウンド事業は、長野県や諏訪圏域で連携する中で、継続した台湾市場への重点的な誘客活動と共に新たな市場への開拓を行ったことに成果があった。										従来の誘客宣伝活動とともに、ターゲットを絞った国内首都圏PR事業として、これまでの雑誌、カフェでのPRの効果に加えて、雑誌とコラボレーションしたFacebookを立ち上げて情報発信を行った。これにより多いときは、約7,000人が閲覧するなどの効果があった。インバウンド事業は、長野県や諏訪圏域で連携する中で、継続した台湾市場への重点的な誘客活動と共に新たな市場への開拓を行ったことに成果があった。														
	前年度改革・改善策の実施状況										実施済										前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	成果の方向性	拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止
今後の方向性		②	③	④	①					
	皆 減 縮 小 現状維持 拡 大					皆 減 縮 小 現状維持 拡 大				
	コスト投入の方向性					コスト投入の方向性				
改革・改善策	首都圏でのPRを行った結果、茅野市を訪れ、どのぐらい滞在したかを検証できるPR方法を検討したい。雑誌、Facebookで運動したキャンペーンへの反応があったことから、メニューを拡充した内容を検討する。また、同等の予算で今年度以上の成果を目指す。					首都圏でのPRを行った結果、茅野市を訪れ、どのぐらい滞在したかを検証できるPR方法を検討したい。雑誌、Facebookで運動したキャンペーンへの反応があったことから、メニューを拡充した内容を検討する。また、同等の予算で今年度以上の成果を目指す。				

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	エコツーリズム推進事業	事業期間	平成 20 ~ 年度	整理番号	04010107
担当部署	産業経済部 商工課	産業振興係	作成担当者名	上田 佳秋	連絡先
					412

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 04 第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり		
			施策 05 第5節 観光の振興			
			細施策 02 ヒューマンツーリズムの発信			
			事務事業 01 エコツーリズム推進事業			
	予算事業名	産業間連携推進事業費		会計コード 001 款 07 項 01 目 04 事業 02		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	エコツーリズム事業推進のための調査、研究及び支援活動や、地域資源の活用に関する事業、自然環境保護活動及び啓発活動等を支援する。				
	現状と背景 （どうして）	H20.6月に設立された茅野エコツーリズム協議会の理念に基づき、茅野市ならではのエコツーリズムを確立し、幅広い関係者が連携して推進できるよう事務局の商工会議所と協力して取り組んでいる。				
	目的 対象	受益者 （誰のために）	市民及び茅野市を訪れる人々等			
		対象 （直接働きかける）	会員、認定団体等			
	目的 意図 （どんな状態にしたいか）	地球環境と共生して、八ヶ岳、蓼科、白樺湖・車山、縄文の里の自然・文化・伝統等の資源を最大限に生かし、持続的発展ができる「まちづくり」と、それを支える「ひとづくり」を目指すと共に、茅野エコツーリズム協議会に加入する各活動団体の持続と発展を目指す。				
	手段・方法 （どうやって）	平成26年度途中から空席になっていた事務局長を選任し、当協議会の理念の定着と事業推進体制の強化を図る。また、会員団体等の推進活動を支援し、指導者の養成、ツアープログラム作成等のスキルアップを図る。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		加盟団体支援事業の実施	支援団体数	団体	エコツーリズムに取り組む事業団体の増	12
		ツアー案内人等の人材育成研修会の開催	研修会開催数	回	ツアー案内人、教育旅行等の指導者の育成	6
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	支援団体事業への参加者の増加	事業参加者数	人	活動指標12団体事業×平均20人	240	

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	1,500,000	1,500,000	561,943	774,880	1,400,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	1,500,000	1,500,000	561,943	774,880	1,400,000	
職員数							
正規職員	人	0.26	0.26	0.20	0.20	0.20	
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.26	0.26	0.20	0.20	0.20	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	27.00	27.00	10.00	14.00	52.00	
活動指標	支援団体数	目標	12	12	12	12	
		実績	7	7	7	9	
	達成率	%	58.33	58.33	58.33	75.00	
	研修会開催数	目標	6	6	6	6	
実績		9	—	1	0		
達成率	%	150.00	—	16.67	0.00		
成果指標	事業参加者数	目標	240	240	240	240	
		実績	193	200	548	—	
	達成率	%	80.42	83.33	228.33	—	
	—	目標	—	—	—	—	
実績	—	—	—	—	—		
達成率	%	—	—	—	—		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・市民プランの細施策において横断的な事務事業である。政策体系番号 02030202 03020401 ・平成25年度から平成24年度以降の活動指標、成果指標を変更（当協議会が行う事業が、補助から事業委託へと変更になったため） ・平成27年度から活動指標を変更「委託事業実施数」→「支援団体数」 						

事務事業名	エコツーリズム推進事業	事業期間	平成 20 ~	年度	整理番号	04010107
担当部署	産業経済部	商工課	産業振興係	作成担当者名	上田佳秋	連絡先
						412

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価

当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		現 状 維 持	③	⑥	⑨
		縮 小	④	⑧	⑩
		休 廃 止	①		
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度 当年度

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4			レ	レ	2						4
課 題	エコツーリズムの理念等の周知のほか、地域の豊富な観光資源を有効活用し観光振興等につながるよう、より効果的な事業展開を推進する体制づくりが課題。												記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要			
	前年度総合評価判定				C				前年度評価シート整理番号				04010107				

総 合 評 価 （ C H E C K ）	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
	協議会のあり方、事業の方向性についての見直しと検討を行い、新たな事務局員を迎え新組織体制のもとに再スタートした。会員の活動支援に努め、会員主体の取組、活動を活性化させ茅野市におけるエコツーリズムを推進する。	協議会のあり方、事業の方向性についての見直しと検討を行い、新たな事務局員を迎え新組織体制のもとに再スタートした。会員の活動支援に努め、会員主体の取組、活動を活性化させ茅野市におけるエコツーリズムを推進する。
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後		
	成 果 的 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止	②	⑤	レ	⑦
		③	⑥		⑨
④		⑧		⑩	
①					
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改 革 ・ 改 善 策	エコツーリズムの理念により茅野市の自然・文化・伝統等の資源を最大限に生かし、持続的発展ができる「まちづくり」につなげるためにも「観光」主導による体制の見直しが必要。		エコツーリズムの理念により茅野市の自然・文化・伝統等の資源を最大限に生かし、持続的発展ができる「まちづくり」につなげるためにも「観光」主導による体制の見直しが必要。		

最終評価年月日 平成28年5月18日 最終評価責任者 商工課長 五味正忠

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光振興支援事業	事業期間	平成 27 ~ 28 年度	整理番号	04040102
担当部署	産業経済部	作成担当者名	藤澤 勇	連絡先	423

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 04 第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり 施策 05 第5節 観光の振興 細施策 02 ヒューマンツーリズムの発信 事務事業 -		
	予算事業名	観光振興支援事業費		会計コード 001 款 07 項 01 目 05 事業 03		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内には、八ヶ岳や山麓の観光を支える様々な団体があり、茅野市が会員として参加する団体や事務局を担当するなど公益的利益を目的とした団体も多数存在している。これらの団体では、観光客のための環境整備や安全対策、イベントの開催、体験型プログラムの推進など様々な活動を通じてヒューマンツーリズムの推進をしている。				
	現状と背景 （どうして）	茅野市を訪れる観光客数はピーク時と比較し6割近くまで減少している。茅野市の観光地を積極的にPRするため、各団体における活動を通じて魅力ある観光地づくりを推進し、おもてなしやサービス向上を持ってリピーター獲得へつなげるため。				
目 対 象 的 意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	受益者 （誰のために）	茅野市の観光地を訪れる観光客				
	対象 （直接働きかける）	それぞれの活動団体及び、その構成団体				
手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	意 図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	各活動団体が実施する環境整備や安全対策、イベントの開催、体験型プログラムの推進など様々な活動を通じてヒューマンツーリズムを推進し、観光客の満足度を向上させることによってリピーター客の獲得を目指す。				
	手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	茅野市が事務局を担当している団体にあつては、会議開催、経理事務・一般事務を行い団体活動の円滑な実施を行う。様々なセクションとの調整が必要となる団体（農業と観光、JR促進、映画祭等）にあつては、庁内外の関係機関、団体との連絡調整を密に行うことによって、イベントやツーリズムの円滑実施を推進し、満足度向上に寄与する。				
N 評 価 指 標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	活動指標	総会、事務担当者会議	開催回数	回	団体ごとに必要とされる都度	40
		観光地における清掃美化活動	活動回数	回	観光地単位での清掃活動回数	35
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		観光客の入り込み	観光地延利用者数	千人	県観光地利用者統計調査	3,470
		観光消費	観光消費額	百万円	県観光地利用者統計調査	11,128

項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	8,368,000	9,638,000	8,438,000	14,024,182	7,823,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円	8,368,000	9,638,000	8,438,000	14,024,182	7,823,000	
職員数	人	0.44	0.84	0.78	0.73	0.73	
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合 計	人	0.44	0.84	0.78	0.73	0.73	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	149.00	172.00	151.00	251.00	238.00	
D 活 動 指 標	開催回数	目標	回	44	44	44	40
		実績	回	41	34	35	39
	達成率	%	93.18	77.27	79.55	97.50	-
	活動回数	目標	回	37	37	39	35
		実績	回	29	35	34	29
	達成率	%	78.38	94.59	87.18	82.86	-
-	目標	-	-	-	-	-	
実績	-	-	-	-	-	-	
達成率	%	-	-	-	-	-	
O 成 果 指 標	観光地延利用者数	目標	千人	3,470	3,470	3,470	3,470
		実績	千人	3,053	3,186	3,194	3,281
	達成率	%	87.99	91.82	92.05	94.55	-
	観光消費額	目標	百万円	11,128	11,128	11,128	11,128
実績		百万円	9,706	10,112	10,062	10,384	
達成率	%	87.22	90.87	90.42	93.31	-	
備考							

事務事業名	観光振興支援事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040102
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	藤澤 勇	連絡先	423

期	目標	実績	課題
第1期	各団体の定期総会等の開催 年間事業計画の策定	各団体において、理事会、定期総会等を実施	事務局の段取りが悪く、資料等に修正が生じた
第2期	負担金支出・補助金交付事務の実施 各団体活動の実施、必要に応じて事務的支援	負担金・補助金の交付 各団体において年間計画に基づき事業を実施、 会計事務など事務的支援実施	いくつかの団体で活動方針等の見直しについて 意見がだされた
第3期	各団体活動の実施、必要に応じて事務的支援 (継続) いくつかの団体においては活動方針等の見直し 実施	「蓼科・白樺湖を美しくする会」では、会の在り方 や補助金活用などについて意見が出されたため、 会員の意見集約を実施。翌年度も継続して同規模 の事業を実施することが決定された	地区役員任期が1年の場合など、議論が深まらない 場合もあり、事務局としての調整に苦労した
第4期	実績報告等の取りまとめと次年度に向けた活動 の検討、下準備	会計年度が終了となるため、年間を通じた活動の 見直し、未実施事業の確認を実施 あわせて現在活動していない団体の整理に向け て検討を開始	「八ヶ岳中信高原国定公園連絡協議会」のような 広域的な団体については意見集約や今後の方向 性の検討がすぐに行えない場合もあり、翌年度の 課題となった。

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 年間計画に基づき、事業を開始し、ほぼすべての団体が円滑に事業を実施 しているが、活動方針などに見直しが必要となった団体もあり、下半期を通じ て整理する必要が生じた	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今 後 の 方 向 性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今 後 の 方 向 性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡充	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止			
今 後 の 方 向 性	成果の方向性		②	⑤	⑦																	
	拡充		③	⑥	⑨																	
	現状維持		④	⑧	⑩																	
	縮小	①																				
休廃止																						
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	<p>皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性</p>																					
団体の活動の在り方や、補助金内容を総合的に検討し、一部団体にあつて は補助金額の減額等実施。引き続き適正な補助金交付と団体の効率的な 運営に努め、観光客の満足度向上に寄与したい																						

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点																A
評価の意義	<p>団体の運営については、活動内容に見合った補助金額を設定する必要があり毎年予算要求時に精査していく必要がある</p> <p>記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号																

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	一部で団体の活動の在り方や、存続の可否などの検討が開始された。今後とも会員の意見を集約していくとともに、観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、柔軟に対応していく必要がある。						一部で団体の活動の在り方や、存続の可否などの検討が開始された。今後とも会員の意見を集約していくとともに、観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、柔軟に対応していく必要がある。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	現在も団体ごとの活動の在り方や補助金額などを適宜精査しながら、同時に事務局としての運営事務を実施している。今後についても継続して観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、活動の在り方や補助金額を精査していく。						現在も団体ごとの活動の在り方や補助金額などを適宜精査しながら、同時に事務局としての運営事務を実施している。今後についても継続して観光業界を取り巻く情勢や観光客の需要などの諸状況に合わせて、活動の在り方や補助金額を精査していく。			

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	観光課長	堀内俊彦
---------	------------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	千駄刈自然学校管理運営事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040105
担当部署	産業経済部 観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424	

計 画 目 的 的 手 段 ・ 方 法	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり							
				施策	05	第5節 観光の振興							
				細施策	02	ヒューマンツーリズムの発信							
				事務事業	06	ヘルスツーリズム推進事業							
	予算事業名			会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業	02
	事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	平成21年から茅野市が千駄刈自然学校を所有し、NPO法人蓼科八ヶ岳国際学校に運営を委託している。NPO法人蓼科八ヶ岳国際学校が自然体験学習を目的とした学習プログラムを企画し実施することで、千駄刈自然学校の運営を行い、自然体験の観光振興を図っている。											
	現状と背景 (どうして)	千駄刈自然学校の施設管理を茅野市が行っており、運営は委託をしている。委託先のNPO法人蓼科八ヶ岳国際学校が一人立ちすることを目標に、施設管理と、運営の指導を行う。また、自然体験のずばらしさをアピールし、茅野市の観光振興を図りたい。											
	対象	受益者 (誰のために)	NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校、市民および観光客										
		対象 (直接働きかける)	NPO法人蓼科八ヶ岳国際自然学校、市民および観光客										
	意図 (どんな状態にしたいか)	参加者が増加する体験プログラムを充実させ、市民および観光客の集客に繋げる。											
	手段・方法 (どうやって)	NPO法人蓼科八ヶ岳国際学校に委託し、自然体験を目的としたプログラムを企画し実施・運営する。 (1) プログラムのパンフレットを作成し、学習旅行誘致事業を含めたプロモーションを行う。 (2) パンフレット郵送による情報発信を行う。 (3) 年間利用者を分析し人気のあるプログラムについて検討する。 (4) 利用者が安全かつ快適に利用できるように施設の管理を行う。											
N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		プロモーション活動		回	体験プログラムのプロモーション			5					
		パンフレットによる配布による情報発信	配布枚数	枚	パンフレットを郵送や訪問により配布する			1,000					
		プログラムの検討	検討会議	回	プログラムの分析に対する検討会議			2					
	成果指標	成果・効果は何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		体験プログラムの参加者数	利用者数	人	体験プログラムへの参加者数			8,000					

実 施 状 況	項目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)		
	財 源 内 訳	事業費等(a)	円	4,365,486	4,280,685	4,089,399	4,155,620	5,104,000	
国庫支出金		円							
県支出金		円							
地方債		円							
その他特定財源		円	7,900	34,100	14,850	3,000	15,000		
一般財源		円	4,357,586	4,246,585	4,074,549	4,152,620	5,089,000		
正規職員		人	0.20	0.20	0.03	0.03	0.03		
嘱託職員		人							
臨時職員		人							
合計		人	0.20	0.20	0.03	0.03	0.03		
D O	対象(者)数								
	延利用(者)数(b)								
	単位コスト(a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
	受益者負担額	円							
	市民一人当たりのコスト	円	78.00	76.00	73.00	74.00	95.00		
	活 動 指 標	体験プログラムのプロモーション	目標	回	5	5	5	5	
			実績	回	5	5	5	5	
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-	
		配布枚数	目標	枚	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
			実績	枚	500	1,000	1,000	1,000	
達成率		%	50.00	100.00	100.00	100.00	-		
検討会議	目標	回	2	2	2	2	2		
	実績	回	1	2	2	2			
達成率	%	50.00	100.00	100.00	100.00	-			
成 果 指 標	利用者数	目標	人	8,000	8,000	8,000	8,000		
		実績	人	5,433	4,751	4,435	5,831		
	達成率	%	67.91	59.39	55.44	72.89			
	-	目標	-						
実績	-								
達成率	%	-	-	-	-	-			
備考	臨時職員の人件費は事業費(a)に含まれています。								

事務事業名	千駄川自然学校管理運営事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	04040105
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	自然体験ができるプログラムを東京、大阪、名古屋、九州、関東において、プロモーションの開催を行う。サマーキャンプの保護者説明会を横浜及び東京会場にて実施する。	7/2東京、7/15大阪にて教育旅行誘致説明会を実施した。6/27,28サマーキャンプの説明会を実施した。	プログラムの実行が天候に左右される為、天候が良好の場合は問題ないが、悪天候に対応できるプログラムを立案することが必要である。
第2期	7/25から3泊4日8コースで実施する。千駄川自然学校と、体験プログラムをパンフレットの配布により情報を発信する。	修学旅行を企画する旅行会社をターゲットに訪問によるパンフレットの配布を行い、修学旅行や野外学習の場所に千駄川自然学校を使ってもらえるように、宣伝活動をおこなった。また、ダイレクトメールの送付を行い、施設とプログラムの宣伝を行った。	訪問による宣伝活動の中で、天候の変化に対応できるプログラムについての問い合わせが多かった。引き続き、悪天候に対応できるプログラムの立案が必要である。
第3期	プログラムの企画と実施を委託しているNPO法人国際自然学校との検討会議を開催し、新しい遊具の導入とプログラムの企画と実施の改善について検討を行う。	雨天時において、コミュニティセンターの利用を検討した。	雨天時において、コミュニティセンターの利用について詳細の検討が必要である。
第4期	雨天時において、コミュニティセンターの利用について詳細の検討を行う。	NPO法人国際自然学校との検討会を実施し、平成27年度の事業展開について打合せを行った。また、平成26年の利用について検証を行った。雨天時において、コミュニティセンターの利用を開始した。	雨天時において、コミュニティセンターの利用を検討し、実施することができた。利用者目標8000人を目標にPRが必要である。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 コミュニティを利用した悪天候に対応できるプログラムを立案することが必要である。また、新しい遊具の検討が必要になる。	今 後 の 方 向 性
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 平成28年度は利用者数8,000人を目標にプロモーションと宣伝活動の充実を図るとともに、民間事業との調整、タイアップした事業展開が必要である。	成 果 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止
	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック																A
課 題	現在は、千駄川自然学校の施設を茅野市が所持し、プログラムの企画、運営をNPO法人国際自然学校へ委託している。茅野市としては、この施設の維持管理、運営をNPO法人国際自然学校で行う事を目標としている。これには利用者数が8,000人となる必要があるため、プロモーション活動、プログラムの充実化、施設の充実化を図ることが必要となる。															
	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
	前年度総合評価判定 B															
	前年度評価シート整理番号 04040113															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		全国で最も標高の高い場所でのオリエンテーリング等各種の自然体験プログラムを実施しており、学習旅行を中心に利用者が増加傾向にある。地区コミュニティセンターを利用した雨天時対策が図れたので、プロモーション活動、プログラムの充実化を進める必要がある。また、施設が老朽化してきているため、維持管理費についても検討が必要である。今後、更なる利用者数の増加により安定的な運営を確保することが求められる。								
	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 後 の 方 向 性	成 果 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止	② ③ ④ ①	⑤ ⑥ ⑧	⑦ ⑨ ⑩	レ	成 果 拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止			
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									
	プロモーション活動、プログラムの充実化を図ることが先決である。また、利用者について学習旅行にとどまらず地元小中学校をターゲットのプロモーションの行い、利用者数の増加を図る。施設の修繕、維持管理について検討が必要である。									
	プロモーション活動、プログラムの充実化を図ることが先決である。また、利用者について学習旅行にとどまらず地元小中学校をターゲットのプロモーションの行い、利用者数の増加を図る。施設の修繕、維持管理について検討が必要である。									

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	観光課長	堀内俊彦
---------	------------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	観光施設維持管理事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040103					
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳 平 智 秀			連絡先	424					
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり								
				施策	05	第5節 観光の振興								
				細施策	05	観光拠点の整備								
				事務事業		—								
	予算事業名				会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業	05
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	当市の観光エリアには、登山道、遊歩道、園地、公衆トイレが多くある。現在、茅野市を訪れる観光客が微増傾向にあるが、観光客数に関係なく、茅野市を訪れて来た観光客が、安全に観光を満喫でき、快適に公衆トイレを利用できるよう施設維持管理を行う。 また、蓼科エリアの誘客を目的に湖畔に位置する彫刻公園を市民、観光客等に無料開放し、湖周の整備と一体化を図り、相乗効果をあげる。												
	現状と背景 （どうして）	観光地では、観光客が安全かつ、快適に観光ができるよう登山道、遊歩道、観光案内看板を含む園地等での修繕が不可欠である。また、公衆トイレは非常に重要な施設であり、清潔感を保つことが重要である。 また、蓼科湖の集客力が低下しており、周辺の魅力をあげる取り組みが必要とされている。												
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	安全で快適な魅力ある観光施設を目指し、「茅野市に来てよかった」と思われる環境整備を目指す。 市民、観光客で蓼科湖周辺が賑わい、観光業を活性化させる。											
	手段・方法 （どうやって）	受益者 （誰のために）	市民、観光客、登山者											
		対象 （直接働きかける）	施設をパトロールする団体や施設を維持管理する団体											
		意図 （どんな状態にしたいか）	安全で快適な魅力ある観光施設を目指し、「茅野市に来てよかった」と思われる環境整備を目指す。 市民、観光客で蓼科湖周辺が賑わい、観光業を活性化させる。											
		手段・方法 （どうやって）	遊歩道の巡回の強化をし、維持工事が必要な箇所は迅速に対応する。 公衆トイレの点検回数、清掃回数を増やす。 リゾートホテル蓼科を経営する法人と契約を締結し、蓼科湖畔に位置する同ホテル彫刻公園を市民、観光客等に無料で開放し、誘客につなげる。											
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		活動指標	遊歩道の維持管理	遊歩道等の巡回数	回	観光客等の入り込みが予想されるシーズン中。各月の連休前後等の巡回（月3回）				36				
			トイレ清掃、点検回数	トイレ清掃、点検回数	回	週3回の点検清掃（週3回×4週）×12ヶ月				144				
		広告宣伝	広告掲載数	回					5					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
			観光客等からの苦情を無くす	非苦情発生件数	件	1年間に観光客等からの苦情がなかった日を1件として				365				
		観光客の入り込み数	観光地延利用者数	千人	県観光地利用者統計調査				3,470					

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
			事業費等(a)	円	28,878,706	29,132,903	29,762,585	26,943,879
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	1,997,304	2,513,899	2,735,296	2,390,000	2,420,000	
	一般財源	円	26,881,402	26,619,004	27,027,289	24,553,879	29,021,000	
	職員数	人						
対 象 （ ） 数	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人						
	対象（者）数							
	延利用（者）数(b)							
単 位 コ ス ト （ a ） / （ b ）	単位コスト(a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	514.00	520.00	532.00	481.00	562.00	
	活 動 指 標	遊歩道等の巡回数	目標	36	36	36	36	36
			実績	33	36	36	36	36
			達成率	91.67	100.00	100.00	100.00	—
トイレ清掃、点検回数		目標	144	144	144	144	144	
		実績	96	96	96	96	96	
		達成率	66.67	66.67	66.67	66.67	—	
広告掲載数	目標	—	—	—	—	—		
	実績	—	—	—	—	—		
成 果 指 標	非苦情発生件数	目標	365	365	365	365	365	
		実績	360	360	360	360	—	
		達成率	98.63	98.63	98.63	98.63	—	
	観光地延利用者数	目標	3,470	3,470	3,470	3,470	3,470	
		実績	3,053	3,186	3,194	3,281	3,470	
		達成率	87.99	91.82	92.05	94.55	—	
備考								

事務事業名	観光施設維持管理事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	04040103
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	施設のパトロールを行う団体や施設を使用している団体、管理している団体との連絡体制を確認する。彫刻公園についてプレス等によるPR	施設のパトロールを行う団体や施設を管理している団体との調整、確認を行った。また、冬期間に破損した箇所等の確認を行った。彫刻公園は、別荘用広報の「夏のおたより」への掲載をした。	茅野市全域において老朽化している観光施設の把握をする事が大切である。施設の破損による事故を防止することが必要である。
第2期	管理者と、登山道、遊歩道等の巡回について頻度、方法の打合せを行う。 平成27年度修繕工事に着手する。 夢科湖遊歩道等整備との連携調整	発注業務を行った委託、工事は、無垢狂言板修理工事、他1件。その他の工事は第1期に終了している。 登山道について八ヶ岳観光協会と現地確認を行い、状況を確認する。	第3期は秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならない工事について、工程管理の指導が必要である。また、冬期間の前に施設の点検を行う必要がある。
第3期	請負業者と打合せを行い、各工事の着手時期、竣工時期の工程を立案し、スムーズな施工を行う。また、冬期間の前に施設点検を行う。	登山道遊歩道指導標設置工事の発注業務を行った。竣工をした業務は登山道遊歩道指導標設置工事他2件。	リゾートホテルとの負担金の調整等 彫刻公園の市民等及び学校関係への利用の促進
第4期	彫刻公園の夢科湖遊歩道等整備との連携調整、プレス等によるPR。	公衆トイレ管理委託業務3件の竣工、登山道整備事業2件の竣工。	公衆トイレ管理委託業務3件と、登山道整備事業2件について公園法等の準備が必要である。

事中評価																																									
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡</td> <td>充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>現</td> <td>状</td> <td>維</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方</td> <td>縮</td> <td>小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>向</td> <td>休</td> <td>廃</td> <td>止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>性</td> <td colspan="6">皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性</td> </tr> </table>	今	成果	拡	充		②	⑤	⑦	後	の	現	状	維	③	⑥	⑨	の	方	縮	小		④	⑧	⑩	方	向	休	廃	止	①			向	性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					
今		成果	拡	充		②	⑤	⑦																																	
後		の	現	状	維	③	⑥	⑨																																	
の		方	縮	小		④	⑧	⑩																																	
方	向	休	廃	止	①																																				
向	性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																																							
第3・4期は冬期間になるため、秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならない工事について、工程管理が必要である。10月中旬から11月中旬の短期間に施工しなければならない工事について重点的に行なわなければならない。																																									
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																																									
施設の老朽化が激しく、修繕料が多くなる。清潔なトイレを目指し、改修計画を立てる必要がある。																																									

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定	
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定		
評価の観点																A	
チェック																	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 観光施設に不具合が起こることは仕方ないので、早期の対処を行える体制を構築することが必要である。 登山道、遊歩道、については最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討する必要がある。 公衆トイレ、各施設は長期的な視点から、安定した運営ができるような修繕方法を選択する必要がある。 彫刻公園について、市民等が関心を持ち、利用していただけるようなプロモーションの検討 															記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定	A																
前年度評価シート整理番号	04040103																

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡	充	②	⑤	⑦	拡	充		
の	現	状	③	⑥	⑨	現	状	③	⑥	⑨
方	縮	小	④	⑧	⑩	縮	小			
向	休	廃	①			休	廃			
性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> 新しい施設から、老朽化が激しい施設まで幅広く、数量的にも多くある。このさまざまな施設を最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討することが大切である。現在は、現状維持で施設の維持管理をする必要がある。 彫刻公園について、茅野市観光協会等と連携をしながら、より効果的なPR及び彫刻公園を利用したイベント等を進めていく必要がある。 					<ul style="list-style-type: none"> 新しい施設から、老朽化が激しい施設まで幅広く、数量的にも多くある。このさまざまな施設を最低限の維持管理費で賄える方法や工法を検討することが大切である。現在は、現状維持で施設の維持管理をする必要がある。 彫刻公園について、茅野市観光協会等と連携をしながら、より効果的なPR及び彫刻公園を利用したイベント等を進めていく必要がある。 				
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡	充	②	⑤	⑦	拡	充		
の	現	状	③	⑥	⑨	現	状	③	⑥	⑨
方	縮	小	④	⑧	⑩	縮	小			
向	休	廃	①			休	廃			
性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	<ul style="list-style-type: none"> 地元協会のボランティアによる活動を取り入れる。 現地発生材を利用したような工法検討を行う。 彫刻公園のプロモーションに努め、湖周の整備と一体化することで、相乗効果をあげる。 					<ul style="list-style-type: none"> 地元協会のボランティアによる活動を取り入れる。 現地発生材を利用したような工法検討を行う。 彫刻公園のプロモーションに努め、湖周の整備と一体化することで、相乗効果をあげる。 				

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	観光課長	堀内俊彦
---------	------------	---------	------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		観光施設整備事業		事業期間	平成 23 ~ 26 年度	整理番号	0404104					
担当部署		産業経済部		作成担当者名	柳 平 智 秀	連絡先	424					
計	市民プランにおける位置づけ	有	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり							
			施策	05	第5節 観光の振興							
			細施策	05	観光拠点の整備							
			事務事業		-							
予 算 事 業 名	観光施設整備事業費		会計コード	001	款	07	項	01	目	04	事業	06
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	現在、茅野市を訪れる観光客が減少している。茅野市を訪れた観光客が、安全に観光を満喫できるよう施設整備を行う。 ハケ岳エリア 登山道整備、トイレ整備、駐車場の整備 白樺湖エリア ジュギンコースの整備、看板整備 夢科湖エリア 遊歩道の整備 縄文の里エリア 晴ヶ峰観光施設の整備計画の検討											
現状と背景 (どうして)	ハケ岳エリアは、登山ブームにより登山者が増加し初心者が増え、安全な登山道の整備求められている。白樺湖エリアは、散策や大自然をロケーションとした眺望を楽しむ事他に、「スポーツ、健康」といった新しいコンセプトに基づいた誘客を行う事を目的として整備する。夢科高原の核となる夢科湖を整備し、この土地を訪れる観光客が必ず立ち寄る施設を目指す。											
目 的	受 益 者 (誰のために)	市民、観光客、登山者										
	対 象 (直接働きかける)	同上										
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	意 図 (どんな状態にしたいか)	ハケ岳エリア 初心者からエキスパートまで安全に、快適な登山が楽しめるように整備する。 白樺湖エリア 合宿誘致をし、選手をターゲットにランナーが集う白樺湖を目指す。 夢科湖エリア 核となる施設を整備し、活気あるブランドの夢科を取り戻す。										
		自然環境整事業、パイロット事業を活用し、整備の遂行を図る。 ハケ岳エリア 登山道整備工事の実施、トイレ整備工事の実施、登山口駐車場の計画 白樺湖エリア 遊歩道整備工事の実施、看板整備工事、合宿誘致 夢科湖エリア 遊歩道整備工事の実施、核となる施設の計画 縄文の里エリア 峠の茶屋で営業している業者と整備計画の検討を行う。										
N 評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値				
		自然環境整備事業の促進										
	成果指標	成 果 ・ 効 果 は 何 ？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値				
		観光客の入り込み	観光地延利用者数	千人	県観光地利用者統計調査			3,470				
	観光消費	観光消費額	百万円	県観光地利用者統計調査			11,128					

実 施 状 況	項 目	単 位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度(予算 又は決算額)	平成28年度 事業計画(予算)
			事業費等(a)	円	86,027,930	81,501,420	73,377,144
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円	31,945,000	25,868,000	29,208,000	46,641,000	35,770,000
	地方債	円	18,300,000	12,300,000	14,300,000	16,500,000	78,700,000
	その他特定財源	円	10,532,000	14,121,000	19,166,520	30,784,000	140,900,000
	一般財源	円	25,250,930	29,212,420	10,702,624	11,737,880	22,067,000
職 員 数	正 規 職 員	人					
	嘱 託 職 員	人					
	臨 時 職 員	人					
	合 計	人					
D 活 動 指 標	対 象 (者) 数						
	延 利 用 (者) 数 (b)						
	単 位 コ ス ト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受 益 者 負 担 額	円					
O 成 果 指 標	市民一人当たりのコスト	円	1,532.00	1,456.00	1,311.00	1,888.00	4,956.00
備 考	-	目 標	-				
		実績	-				
	-	達 成 率	%	-	-	-	-
		目 標	-				
	-	実績	-				
		達 成 率	%	-	-	-	-
-	観光地延利用者数	目 標	千人	3,470	3,470	3,470	3,470
		実績		3,053	3,186	3,194	3,281
	達 成 率	%	87.99	91.82	92.05	94.55	
	観光消費額	目 標	百万円	11,128	11,128	11,128	11,128
実績			9,706	10,112	10,062	10,384	
達 成 率	%	87.22	90.87	90.42	93.31		

事務事業名	観光施設整備事業	事業期間	平成 23 ~ 26 年度	整理番号	04040104
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳 平 智 秀
				連絡先	424

期	目 標	実 績	課 題
第1期	委託業務、工事の発注準備 自然公園法及び保安林、国有林等の申請書提出 事業展開について地元協会との調整	申請書関係は提出を行った。起工した委託、工事は、横谷峽遊歩道整備工事、他4件。	工事の着手時期と竣工時期を考慮しての工程の立案が必要である。発注業務が完了した工事について、工程管理を行い、早期竣工を目指す。
第2期	工事発注業務の完了。 峠の茶屋事業者との売買契約について協議を進める。	工事の発注は、自然環境整備事業3件他、市単独費工事7件、委託業務4件を発注し、竣工となったのはそのうち工事2件、委託2件であった。峠の茶屋事業者と協議を行い、事業推進を図った。	第3期は秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならない工事について、工程管理の指導が必要である。10月中旬から11月中旬の短期間に施工しなければならない工事について重点的に行なわなければならない。
第3期	請負業者と打合せを行い、各工事の着手時期、竣工時期の工程を立案し、スムーズな施工を行う。また、未発注の工事を発注し、年度内の竣工を目指す。峠の茶屋の売買契約の事業推進を図る。	発注業務を行った委託、工事は、看板整備工事等全6件。すべて竣工となった。来年度の工事について計画を立てることができた。	12月の降雪前に竣工しなければならない工事については、全て現場の竣工とすることができた。最終の第4期を迎え、年度内竣工を目指し、発注業務を行う。
第4期	本年度予定している委託、工事の業務について完了を目指す。	竣工となった委託、工事は、5件。本年度予定していた委託、工事は、全て終了となった。	自然環境整備事業について繰越工事の準備が必要である。

事 中 評 価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 第3・4期は冬期間になるため、秋の行楽シーズンと降雪の前に施工しなければならない工事について、工程管理が必要である。10月中旬から11月中旬の短期間に施工しなければならない工事について重点的に行なわなければならない。 新年度の実実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 観光地の工事は、ゴールデンウィーク、夏休み、秋の行楽シーズン、冬期間という制約が多い為、年間を通しての工程管理が必要である。 来年度施工予定の桜平登山口的设计を進める必要がある。	<table border="1"> <tr> <td>今 成 果 的 方 向 性</td> <td>充 足</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>方 向 性</td> <td>現 状 維 持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td></td> <td>縮 小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>休 廃 止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性</p>	今 成 果 的 方 向 性	充 足	②	⑤	⑦	方 向 性	現 状 維 持	③	⑥	⑨		縮 小	④	⑧	⑩		休 廃 止	①		
今 成 果 的 方 向 性	充 足	②	⑤	⑦																	
方 向 性	現 状 維 持	③	⑥	⑨																	
	縮 小	④	⑧	⑩																	
	休 廃 止	①																			

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック																A
課 題	<p>自然公園法等の協議上の関係では、八ヶ岳登山道について、国有林の貸付について、南信森林管理署と早めの協議が必要である。本年度はパイロット事業の整備が遅れ、事業に遅れが生じてしまった。工事、委託の発注作業、工事施工、検了については概ね予定とおり進んだと思われる。業者の工程管理が案になるように早期起工に努める事が必要である。地元協会との事前打合せに工程管理を組み入れ、年間を通してスムーズな、観光に支障の少ない工程を立てることが必要である。繰り越した工事の早期着手が望まれる。</p>															
記号の定義	<p>A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定	A															
前年度評価シート整理番号																

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		<p>観光客の利便性を考慮して施設の整備を進めて行くことが必要である。白樺湖、夢科湖の大型事業が遂行される中、他の事業は現状維持が妥当である。また、八ヶ岳登山道整備については、八ヶ岳観光協会の協力が不可欠でありことから、現状維持が妥当である。</p>								
	<p>観光客の利便性を考慮して施設の整備を進めて行くことが必要である。白樺湖、夢科湖の大型事業を積極的に進めるとともに、他の事業は現状維持が妥当である。また、八ヶ岳登山道整備については、八ヶ岳観光協会の協力が不可欠でありことから、現状維持が妥当である。</p>									
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
		成 果 的 方 向 性	充 足	②	⑤	⑦	充 足				⑦
		現 状 維 持	③	⑥	⑨	現 状 維 持					
		縮 小	④	⑧	⑩	縮 小					
		休 廃 止	①			休 廃 止					
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地元協会との定期的な打合せを行う。 ・工期短縮を図れる工法検討を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ・地元協会との定期的な打合せを行う。 ・工期短縮を図れる工法検討を行う。 					

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	観光課長	堀 内 俊 彦
---------	------------	---------	------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名		観光温泉施設管理事業（すずらの湯）			事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040106							
担当部署		産業経済部		観光課	観光係	作成担当者名		柳平智秀	連絡先	424							
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	政策体系	政策	04	第4章 住みやすく、働きやすく、訪れてみたい緑のまちづくり												
			施策	05	第5節 観光の振興												
			細施策	05	観光拠点の整備												
			事務事業	09	-												
	予算事業名							会計コード	001	款	07	項	01	目	05	事業	08
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	平成21年から茅野市がすずらの湯を所有し、茅野市総合サービスに運営を委託している。茅野市が施設の管理を行い、茅野市総合サービスが運営を行う。															
	現状と背景 （どうして）	国内外の経済状況の悪化を受けた生活防衛のための出控え、高速交通網の進展に伴う通過地点化、スキー人口の激減、大手宿泊施設の廃業・廃屋化によるイメージダウンなど、観光客数は低迷が続いている。これに伴い、すずらの湯の利用者の増加は図れていない。															
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	観光客、市民														
		対象 （直接働きかける）	同上														
		意図	観光地の温泉施設として、観光の際に必ず立ち寄る施設を目指し、さらに、すずらの湯を目的として白樺湖を訪れるように施設の充実を図る。また、白樺湖をスポーツトレーニングの宿泊地とし、「温泉施設」を観光資源とした誘客促進を目指す。														
	手段・方法 （どうやって）	観光地の温泉施設として、観光の際に必ず立ち寄る施設を目指し、さらに、すずらの湯を目的として白樺湖を訪れるように施設の充実を図る。また、白樺湖をスポーツトレーニングの宿泊地とし、「運動と健康」をコンセプトに温泉を加えた観光地を目指す。															
N （ ）	活動指標 の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値							
		温泉施設の維持管理	機械設備の点検	回	管理委託業者による開場前の点検					365							
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値							
		温泉利用者数	入場者数	人	茅野市総合サービス株式会社が目標としている数字（自社の年間の運営ができる）					120,000							

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	11,915,426	23,778,587	16,362,022
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	8,359,877	8,169,152	8,001,809	8,024,700	8,550,000
	一般財源	円	3,555,549	15,609,435	8,360,213	6,790,851	5,236,000
	職員数	人	0.20	0.20	0.14	0.14	0.14
延 利 用 （ 者 ） 数 (b)	正規職員	人					
	嘱託職員	人					
受 益 者 負 担 額	臨時職員	人					
	合計	人	0.20	0.20	0.14	0.14	0.14
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	対象（者）数						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
機 械 設 備 の 点 検	目標	回	365	365	365	365	365
	実績		363	365	365	365	
	達成率	%	99.45	100.00	100.00	100.00	-
	目標						
	実績						
	達成率	%	-	-	-	-	-
入 場 者 数	目標	人	120,000	120,000	1,200,000	120,000	120,000
	実績		83,203	81,435	79,884	80,247	
	達成率	%	69.34	67.86	6.66	66.87	-
	目標						
	実績						
	達成率	%	-	-	-	-	-
備 考							

事務事業名	観光温泉施設管理事業（すずらの湯）	事業期間	平成	～	年度	整理番号	04040106
担当部署	産業経済部	観光課	観光係	作成担当者名	柳平智秀	連絡先	424

期	目標	実績	課題
第1期	冬期間に破損した部分の修繕工事を行う。	山野草のトップライトガラス取替工事の発注を行った。	屋根の破損が激しく、復旧工事費が多額になるため、工事費に対し最小限の工法検討が必要である。
第2期	平成27年度予定の工事の発注業務。利用客増加に対する検討を行う「すずらの湯利用促進協議会」の開催準備を行う。屋根復旧工事の施工を行う。	10月の休館日を設定し、工事を行う準備ができた。発注工事、トップライト取替工事他3件。	1週間の休館期間に工事を完了する工程管理が必要である。
第3期	1週間の休館期間に工事を完了する工程管理。利用客増加に対する検討を行う「すずらの湯利用促進協議会」を開催する。	施設改修工事他2件の発注と竣工をした。	平成28年度工事の計画と、総合的な計画の立案。
第4期	平成28年度工事の打合せ。設備の取替時期、維持管理方法について、総合的な計画を立てる。	サウナ天井張替工事を発注し施設改修を行った。	翌年後工事の優先順位を立て、準備を進める。

事中評価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今後の方向性 方向性
屋根の老朽化が激しく、改修が必要となった。計画的に施設整備する必要があるが、突発的な事項が多い。改修計画の見直しが必要である。	
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	
設備の維持管理は計画的に進めることが難しくなったため、計画の見直しが必要である。営業に関して、食堂の改善を考える必要がある。	
② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性	

評価年度	当年度
------	-----

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	

課題	施設が年々老朽化するなかで、いかにして設備投資費を少なくして温泉施設を維持していくか。また、落雷等突発的な事象に対する対応について検討する必要がある。その他は、営業面に対する苦情を無くす対策を講じる必要がある。特に、食堂の改善を考える必要がある。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 A 前年度評価シート整理番号 04040124
	前年度総合評価判定	
	前年度評価シート整理番号	

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	白樺湖・車山地域として大事な観光温泉施設であり、地域の誘客を図るための大切な施設である。今後とも良好な環境で施設を維持し、利用者の増加を図る必要がある。平成27年度の修繕工事により建物修繕が進められた。また、落雷による損傷なども対応し、営業停止期間を最小限にすることができた。	白樺湖・車山地域として大事な観光温泉施設であり、地域の誘客を図るための大切な施設である。今後とも良好な環境で施設を維持し、利用者の増加を図る必要がある。平成27年度の修繕工事により建物修繕が進められた。また、落雷による損傷なども対応し、営業停止期間を最小限にすることができた。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
現状維持	③	⑥	⑨							
縮小	④	⑧	⑩							
休廃止	①									
皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性									
改革・改善策	欠陥個所の早期発見に努め、被害を最小限にして施設を維持していく。食堂の運営方法の改善。									
改革・改善策	欠陥個所の早期発見に努め、被害を最小限にして施設を維持していく。食堂の運営方法の改善。									

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	観光課長	堀内俊彦
---------	------------	---------	------	------